

使用方法

1 下地処理

目荒らし

モルタルの接地面については目荒らしを行い、目荒らし等の処置が不可の場合は、レイトンス等の除去を行ってください。

水湿し又は吸水調整材塗布

モルタルの接地面については水湿しを行い、接地面の乾燥が著しい場合や打設までに時間を要する場合、吸水調整材(エフェクトA)の塗布を推奨します。

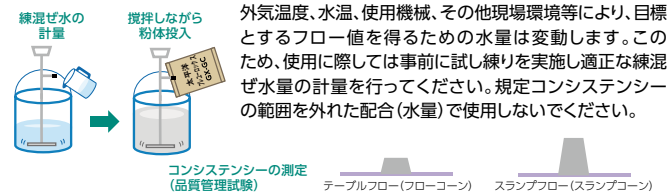
2 練混ぜ

練混ぜ水

練混ぜ水は、有機不純物等を含まない清水としてください。

水量

練混ぜ水量は、カタログ記載範囲内の水量にて、コンシステンシー(テーブルフロー又はスランプフロー試験)規格値範囲内となる水量としてください。



練上り温度

練上り温度は、5～40℃の範囲としてください。

暑中対策

夏場の高温環境下での施工については、材料を直射日光の当たらない場所に保管し、環境に応じてあらかじめ冷却した練混ぜ水を使用して、練上り温度が40℃以下となるようにしてください。

寒中対策

冬場の低温環境下での施工については、材料を屋内やシート養生により保管し、環境に応じてあらかじめ温めた練混ぜ水を使用して、練上り温度が5℃以上となるようにしてください。

練混ぜ

練混ぜは機械練りで参考練混ぜ時間(90秒～120秒)を目安に均一に練混ぜてください。アルミニウム製羽根のハンドミキサーで練混ぜを行うと、アルミニウム部材が摩耗し、施工後モルタルが異常膨張することがありますので使用しないでください。練混ぜは1000rpm以下の機械練りミキサーの使用を原則としてください。なお、ハンドミキサーはかご型の羽根形状を推奨します。それ以外のミキサーを使用する場合は事前に試験練りを実施の上、使用水量の範囲で所定のコンシステンシーが得られることを確認してください。

品質管理試験

施工時の品質管理試験はコンシステンシー(テーブルフロー又はスランプフロー試験)測定を行ってください。又、必要に応じて圧縮強度測定用に供試体(φ50mm H:100mm)の採取を行ってください。圧縮強度用供試体を作製する場合、成型後直ちに上面をラップ等で密封し、水分の蒸発を防ぐようにしてください。無収縮グラウト材の圧縮強度供試体の作り方は、別添リーフレット等の資料を参考にしてください。

3 打設

型枠(拘束)

本製品は3面以上の拘束環境下でご使用願います。拘束条件が不十分な箇所に打設した場合、ひび割れ発生の要因となるおそれがあります。

仕上げ

硬化後、モルタル表面が露出する箇所については、コテ押えをし、表面の仕上げ処理を行ってください。コテ仕上げが困難な場合は、仕上げ補助材(キュアキーパー)を使用してください。コテ押えが不十分な場合、プラスチックひび割れ等の発生要因となるおそれがあります。

4 養生

露出面の養生

硬化後、モルタル表面が露出する箇所や弱材齢状況下で型枠の早期脱型を必要とする場合は、乾燥によるひび割れが発生する恐れがありますので、湿潤養生を行うか、又は塗膜養生剤(キュアキーパー)の塗布による塗膜養生又は硬化後の塗布型収縮低減剤(クラックセイバー)の塗布を推奨します。但し塗膜養生剤は仕上げ材との相性がありますので、ご使用の際は弊社までお問合わせください。

暑中対策

夏場の高温環境下における施工では、打設箇所に直射日光が当たらないようにシート等にて養生してください。

寒中対策

冬場の低温環境下における施工で打設後に5℃以下となる場合、シートや灯光器等を用いて保温養生をしてください。

養生期間

打設完了後、モルタルが完全に硬化するまでは、衝撃、振動等を与えないようにし、露出面がある場合、露出面に風雨等が直接当たらないようにシート等にて養生してください。養生期間は、強度発現時(3日以上)を目安とします。ただし、諸条件により3日以内の早期脱型を必要とする場合は、カタログ記載物性値を参考に判断願います。

保管・廃棄

保管: 材料の保管には雨露等がかからず湿気の少ない場所を選び、パレット等を敷き床面から離れた状態でビニールシート等で覆ってください。又、一旦開封したものは、その日のうちに使用してください。

廃棄: 本製品を廃棄する場合は、産廃物として許可を得た産廃物処理業者へ依頼してください。海、河川、池、下水道への投棄は絶対にしないでください。洗浄水等の排水は、水質汚濁防止法等の関連諸法令に従って廃棄してください。

その他: 本カタログ記載外の用途に使用される場合は、ご使用者側にて調査検討の上、ご不明な点はご相談いただけますようお願いいたします。

ロットナンバー: 製品のロットナンバーは製造年月日を表し、[MMDDYY]の場合、MM:製造月(2桁) DD:製造日(2桁) Y:製造年(西暦1桁)となります。例)01233の場合は、2023年1月23日製造となります。

安全上の注意事項



- 本製品は、カタログに記載されている方法でご使用ください。
- 本製品はセメントと同様にアルカリ性を示します。使用の際は、眼・鼻・皮膚及び衣類に触れめよう保護具(ゴム手袋、保護眼鏡、防塵マスク、保護衣等)を着用の上で使用ください。
- 誤って眼に入った場合は、直ちに清水で充分洗浄した後、医師の治療を受けてください。
- 皮膚に付着すると肌荒れを起こすことがありますので、直ちに水洗いしてください。
- 作業後は手洗い、うがいをしてください。
- 製品の使用にあたってはSDS(安全データシート)を参照願います。

太平洋マテリアル株式会社

北海道支店	〒060-0004	北海道札幌市中央区北4条西5-1-3 日本生命北門館ビル	tel.011-221-5855
東北支店	〒980-0804	宮城県仙台市青葉区大町1-1-1 大同生命仙台青葉ビル	tel.022-221-4511
北東北営業所	〒020-0062	岩手県盛岡市長田町2-20 日本ハウスホールディングス盛岡ビル	tel.019-908-2400
東京支店	〒114-0014	東京都北区田端6-1-1 田端ASUKAタワー	tel.03-5832-5242
関東営業部	〒370-0849	群馬県高崎市八島町58-1 ウエスト・ワンビル	tel.027-329-5970
中部支店	〒453-0801	愛知県名古屋市中村区太閤3-1-18 名古屋KSビル	tel.052-452-7141
北陸営業所	〒920-0919	石川県金沢市南町5-20 中屋三井ビルディング	tel.076-234-1670
静岡営業所	〒422-0862	静岡県静岡市駿河区稲川2-2-1 セキスイハイムビルディング	tel.054-685-8333
関西支店	〒541-0042	大阪府大阪市中央区今橋2-3-16 JMFビル今橋01	tel.06-7669-7380
中国支店	〒732-0828	広島県広島市南区京橋町1-23 大樹生命広島駅前ビル	tel.082-261-7191
四国支店	〒760-0050	香川県高松市亀井町7-15 セントラルビル	tel.087-833-5758
九州支店	〒810-0001	福岡県福岡市中央区天神4-2-31 第2サンビル	tel.092-781-5331
鹿児島営業所	〒890-0052	鹿児島県鹿児島市上之園町24-2 第12川北ビルBOIS鹿児島	tel.099-812-7131
沖縄営業所	〒900-0015	沖縄県那覇市久茂地2-22-10 那覇第一生命ビルディング	tel.098-867-9663

tel.011-221-5855
tel.022-221-4511
tel.019-908-2400
tel.03-5832-5242
tel.027-329-5970
tel.052-452-7141
tel.076-234-1670
tel.054-685-8333
tel.06-7669-7380
tel.082-261-7191
tel.087-833-5758
tel.092-781-5331
tel.099-812-7131
tel.098-867-9663



<https://www.taiheiyo-m.co.jp>

本製品の仕様は予告なしに変更することがありますのでご了承ください。本カタログに記載された事項は、弊社の実験結果に基づいたものでありますが、各種条件により実際の現場結果を確実に保証するものではありません。

2024.2
第2版

NETIS番号 CB-240053-A

太平洋 プレユーロックス GX-GC

PRE U-LOX GX-GC

低炭素型 無収縮グラウトコンクリート

Green Transformation

太平洋マテリアル株式会社

低炭素型 無収縮グラウトコンクリート

PRE U-LOX GX-GC

大断面となるコンクリート構造物間や鋼製構造物等との接合部

隙間への間詰め充填やコンクリートの断面欠損部、増厚部への充填

小規模・狭小箇所の施工におけるコンクリート打設やプレパックド工法の代替

太平洋プレューロックスGXシリーズはセメントをはじめとする使用原材料のCO₂排出量を大幅に削減した**低炭素型の無収縮モルタルシリーズ**です。太平洋プレューロックスGX-GCは、低発熱型無収縮モルタルの技術をベースに豆砂利を混和することで水和に伴う温度上昇が抑制され、温度応力を軽減できることから従来の無収縮モルタルでは施工が困難な大断面の施工に適しており、小規模や狭小部に施工するコンクリートの代替等に適しています。



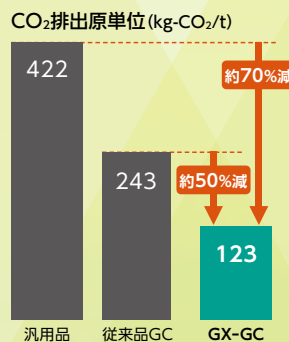
荷姿:18kg/袋

低炭素化

太平洋プレューロックスGX-GCにおける製品あたりのCO₂排出原単位は123 (kg-CO₂/t)であり、これは従来の一般的な無収縮モルタル(骨材/結合材=1.0)に比べて**約70%の削減**、従来の無収縮グラウトコンクリートに比べて**約50%の削減**に相当します。

	CO ₂ 排出原単位 (kg-CO ₂ /t)	1mあたり	
		製品使用量 (kg)	CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)
無収縮モルタル汎用品 (骨材/結合材=1.0)	422	1,875	791
プレューロックス GC (従来品)	243	2,111	513
プレューロックス GX-GC	123	2,057	253

○ CO₂排出量は、Scope1+Scope2+Scope3 (カテゴリ1) の合計 (当社試算による)



安定した品質・性能

プレミックス製品であるため現場では所定の水量で練混ぜるだけで高品質の無収縮グラウトコンクリートが得られます。

優れた施工性・作業環境向上

ハンドミキサーやグラウトミキサーで高流動の無収縮グラウトコンクリートが得られ、モルタルポンプでの圧送が可能です。また、少量荷姿(18kg/袋)であるため、持ち運びや投入時の取扱いが容易となり作業時の負荷が軽減されます。

部材との一体化

ノンブリーディングかつ適量配合された酸化カルシウム系膨張材の作用により、拘束条件下において部材との一体化が図れます。

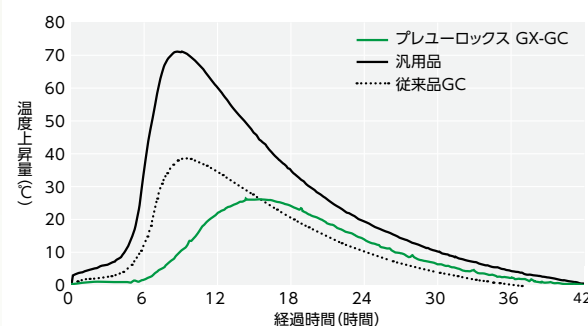
高い強度発現性

一般的なコンクリートに比べ初期強度が高く早強性を有するとともに、長期的にも安定した強度発現性が得られます。

低発熱性

一般的な無収縮モルタルに比べ水熱が大幅に抑制されることから大断面の施工に適しています。充填間隙は40mm以上が目安です。(配筋状況など施工箇所
の条件により異なります)

温度上昇の経時変化



豆砂利 (最大粒径6mm)



標準配合

区分	練上り温度の 範囲(℃)	コンシステンシー規定値		プレューロックス GX-GC (kg)	練混ぜ水量 (kg)	練上り量 (ℓ)
		テーブルフロー (mm)	スランプフロー (mm)			
単用量 (kg/m ³)	5~40	170~250	500~700	2,057 (114袋)	206 (178~232)	1,000
現場配合 (1袋)				18	1.8 (1.5~2.1)	約9

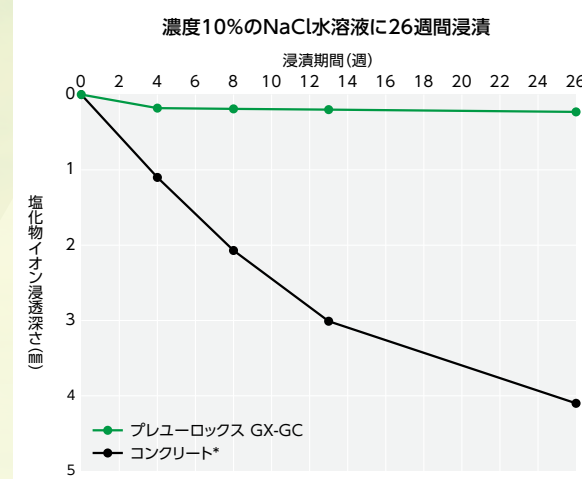
注) ○ 外気温度、材料温度、練混ぜ水温度により規定とするコンシステンシーを得るための水量が若干変動しますので、事前に試し練りを行い、水量の確認を行ってください。
○ 練混ぜは機械練りとし、全材料投入後 (90~120秒) 程度練混ぜを行ってください。
○ 本製品は小分けにせず1袋単位で使用してください。

特性例

プレューロックス GX-GC 18kg/袋		養生温度(℃)					試験方法
		5	10	20	30	40	
練混ぜ水量 (kg/袋)		1.85	1.80	1.80	1.75	1.70	—
コンシステンシー	テーブルフロー (mm)	200	199	208	212	218	JIS R 5201に準拠
	スランプフロー (mm)	650	640	650	660	645	JIS A 1150に準拠
ブリーディング率 (%)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	JIS A 1123に準拠
塩化物量 (kg/m ³)		—	—	0.06	—	—	JASS 5T-502に準拠
膨張収縮率 (%)		—	—	+0.23	—	—	JSCE F 542に準拠
凝結時間 (h-min)	始 発	12-25	9-00	5-40	4-25	4-20	JIS A 1147に準拠
	終 結	15-30	10-30	6-40	5-10	5-00	
圧縮強度 (N/mm ²)	1日	3.0	7.4	23.5	32.7	55.6	JIS A 1108に準拠 (φ5×10cm供試体)
	3日	16.9	28.0	46.6	57.1	68.1	
	7日	29.4	50.5	55.4	64.1	77.6	
	28日	55.6	65.2	67.2	73.6	88.3	
	社内規格値 (材齢:28日)	—	—	55以上	—	—	
静弾性係数 (×10 ⁴ N/mm ²)		—	—	3.37	—	—	JIS A 1149に準拠
付着強度 (N/mm ²)		28日	—	4.6	—	—	NEXCO試験法312に準拠
長さ変化 (乾燥収縮) (μm)		91日	—	494	—	—	JIS A 1129-3に準拠

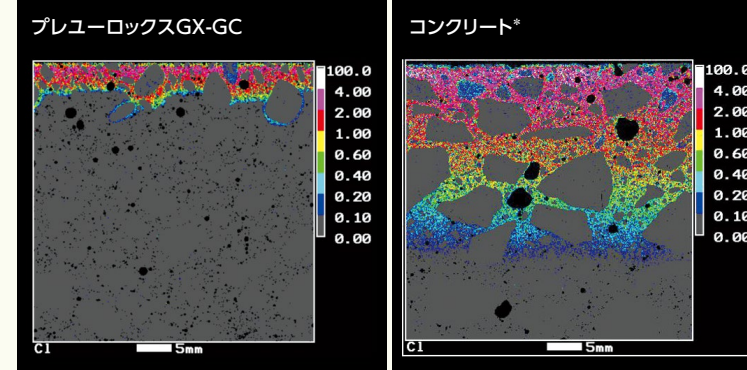
○ 本表に記載の数値については、実験に基づく物性値です。○ 養生温度は、環境温度、練混ぜ水の水温、材料の温度を全て同温度条件にしています。

塩化物イオン浸透深さ



* [27-12-20N]相当

塩化物イオンの見掛けの拡散係数



見掛けの拡散係数 (cm ² /年)	プレューロックスGX-GC	コンクリート*
	0.09	3.47

* [27-12-20N]相当